

会報

アラブヤハ

令和3年3月
第135号
東京都公立学校
情緒障害
教育研究会

共生社会の実現を目指した都情研の役割

「協働的な学びと個別最適な学習の実現をめざして、

東京都公立学校情緒障害教育研究会会長

国立市立国立第二小学校長 小林理人



前代未聞の全国一斉臨時休業の開始から一年が経過しました。この一年を振り返ると、これまで当たり前にできたり、手に入れたりしてい

たことができなくなり、日常の有り難さを痛感する一年でした。しかし、この一年間、今起きていることの原因を考えたり、そのことを受け入れたりすることで未来への扉を開く鍵や、未来へと続く道を拓く道標を得ることにつながったようにも思います。この一年、都情研の様々な活動に携わり、私たちに求められている使命を果たすために尽力してくださいました。

さて、新年を迎えて、これから学校教育の指針となる中央教育審議会の答申が示されました。そこには、「令和の日本型学校教育」とし、私たちが進めていく共生社会の実現を目指した連続性の

ある多様な学びの場の一層の充実・整備の必要性が示されています。

また、東京都の新年度予算案にも、共生社会の実現に向けて社会全体が大きく動く中で、発達障害教育の指導内容・方法の充実に大きな予算が充てられています。

このように、共生社会をめざして全ての子供たちが通常の学級で過ごせるような環境や制度が整備されようとしています。そして、その大きな動きを見据えて、私たち都情研がこれまで培つてきた情緒障害教育への専門性や特性に応じた指導・支援の在り方、専門性を高めるための研究・研修の進め方と組織等の価値ある財産を基盤としてできること、期待に応えることを整理してみました。

教員の資質・専門性の向上

都情研では例年「特別支援学級・教室の実態を調査し、適切な指導、

教育環境、研修体制の充実に活かすこと」を目的に調査研究を行っています。

コロナ禍の本年度も調査を行い、巡回指導を行う教員に求められる資質や高い専門性が、指導経験の少ない教員が多いことから校内での育成・養成が難しい実態が明らかになりました。また、指導対象の児童・生徒数の増加に伴い、教員数の不足から特性に応じた指導が十分に行うことができない実態があることも見えてきました。さらに、固定学級の増加から、交流及び共同学習の方法や交流学級との連携など固定学級特有の課題があることも新たな課題として明らかになりました。

そこで、今後も本会で進める専門性の向上につながる研修を充実させ、巡回指導教員が研修に参加できる校内体制を整えるとともに、学びの連続性や固定学級の増加に対応できるよう、通常の学級の教員を含めた全教員に対する理解啓発等を進める必要があります。

私たちがめざす共生社会の実現につながるインクルーシブな教育を進めるには、あらゆる多様性に対応できる学校、学級やシステムを創ることが必要です。言い換えれば、様々な特性やニーズのある子供一人ひとりが学ぶ意味を感じ、学校教育ならではの協働的な学びや、資質・能力を身に付けるための個別最適な学習を進めることができる学びの場を実現することが必要不可欠になります。

この大きな目標や進むべき方向性を見失うことなく、都情研の活動を継続、発展させていきたいと考えています。

結びに、コロナ禍の一年、本会を支え、活動をつなげてくださった皆様に心から感謝申し上げます。

修会参加のための移動がなくなり参加しやすくなつたことや、研修内容を繰り返し視聴したり、サテライト会場で少人数のミーティングを行ったりしたことで理解を深めることができます。また、対面での研修では得ることが出来ない成果もありました。

今後も、今年度の成果を活かすとともに、各ブロックの実態やニーズを踏まえ、様々な状況に対応した柔軟な運営が求められます。そして、「都情研の研修に参加すれば、現場ニーズに応じた最先端の学びができる」という本会の風土を基盤に、教員の資質や専門性の向上につながる研究・研修を企画、運営していくま

令和2年度 東京都公立学校情緒障害教育研究会 活動報告

研修会名	企画	期日	時間	場所	内容・テーマ・演題	講師等	参加者数
定期総会・記念講演会	本部北	4月21日	14:00	北とぴあ さくらホール	記念講演演題 「通級による指導を愉しむ ～子供の見方、関わり方～」	前新宿区特別支援相談員 長谷川 安佐子先生	中止
第1回ブロック研修会(入門研修)		5月19日					中止
第1回ブロック研修会 合計(人)							
第2回ブロック研修会(入門研修)		6月23日					中止
第2回ブロック研修会 合計(人)							
第3回ブロック研修会(教室・学級運営)	東	7月14日					中止
第3回ブロック研修会 合計(人)							
中学校特別支援教室課題研修会	本部	8月21日					中止
臨時研修会	本部	9月1日	14:30	国立市立国立第二小学校(ホスト校) ミニサテライト47校	第1部 座談会(Vimeoを活用した動画視聴) 「特別支援教室 感染症対策下での通級による指導と配慮」 第2部 質疑応答・意見交換(Zoom)	国立市立国立第二小学校 校長 小林 理人 西東京市立東伏見小学校 指導教諭 上山 雅久 あきる野市立多西小学校 主幹教諭 中村 敏秀 調布市立石原小学校 主任教諭 尾形 俊亮	577
第4回ブロック研修会(専門研修)	東	9月8日	14:30	墨田区立錦糸小学校(ホスト校) 墨田区立外手小学校 墨田区立両国小学校 墨田区立菊川小学校	「発達障害児の理解と指導の基礎・基本～コロナの状況もふまえて～」 (ホスト校からのZoom配信)	Space Zero PDD 心理教育研究所所長 (元福島大学大学院教授) 水野 薫先生	112
	北	9月8日			紙面による教材交流(略案・教材紹介など)		
	南	9月8日	14:30	世田谷区立京西小学校 体育館	「特別支援教育で大切にしたいこと」	早稲田大学大学院教職研究科・保健センター学生相談室臨床心理士 長岡 恵理先生	102
	多摩南	9月8日	14:30	府中市立府中第九小学校 体育館	「特別支援教室で求められる学習動作の指導について～新型コロナ対策も視野に入れて～」	神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 大学院保健福祉学研究科教授 笹田 哲先生	114
	多摩北	9月8日	14:30	ルネこだいら 小ホール	「特別支援教室における小集団について～小集団指導を行う意味と課題を考える～」	町田市立南成瀬小学校サポートルーム講師 伊藤 久美先生	135
第4回ブロック研修会 合計(人)							
第5回ブロック研修会(専門研修)	東	10月13日	14:30	江東区立臨海小学校 体育館	「特別支援教室で求められる学習動作の指導について～新型コロナ対策も視野に入れて～」	神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 大学院保健福祉学研究科教授 笹田 哲先生	98
	北	10月13日	14:30	国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟セミナーホール417	「発達障害児の理解と指導の基礎・基本～コロナの状況もふまえて～」	Space Zero PDD 心理教育研究所所長 (元福島大学大学院教授) 水野 薫先生	100
	南	10月13日	14:30	大田区池上会館	「特別支援教室における指導について～授業をどう組み立て、指導するか～」	町田市立南成瀬小学校サポートルーム講師 伊藤 久美先生	102

◆令和三年度「定期総会」案内

【時事】

十四時開始予定

A 場所

「きりあん」大ホー

国立アーリンビジネス語急習 青少年総合センター

カルチヤー機大ホリ
(定員380名)

※E会場はサテライト会場なり、A会場とZoomでつ

【語念講演】

援教室を考える、指導の

実と専門性の向上を図る
めには〔

(講師) 創価大学 教職大学院

准教授（本会元會長）
渡辺秀貴先生

※ホームページからの事前

し込みをお願いします。当
の受付は行いません。希望

る会場を選択してください
申込み期間は四月一日(木)

から十七日（土）二十四時

※新型コロナウイルスの状況
めります。

等により、中止する場合があります。中止の決定が直前

当 日 は 都 情 破 H H て 必 す
確 認 く だ さ い 。

令和3年度 東京都公立学校情緒障害教育研究会 活動計画

月	日	曜	研修会名、事業名
4	13	火	企画運営本部委員研修会①
	20	火	第1回 企画運営本部会・役員 令和3年度 定期総会・記念講演会 地区ブロック本部会（5地区合同）
	11	火	企画運営本部委員研修会②
5	25	火	第1回 地区ブロック研修会（都情研入門）
	-	-	●都情研実態調査（全地区、基準日5月1日）
6	8	火	企画運営本部委員研修会③
	22	火	第2回 地区ブロック研修会（都情研入門）
7	6	火	企画運営本部委員研修会④
	13	火	第3回 地区ブロック研修会（教室・学級運営）
	-	-	★東京都教育委員会との連絡会
	-	-	◆会報「みちびき136号」発行
8	上旬		企画運営本部委員研修会
	20	金	臨時 中学校特別支援教室課題研修会 第2回 企画運営本部会・役員会（午前または課題研終了後）
	-	-	★三連協（都難言、都弱視）
9	7	火	第4回 地区ブロック研修会（専門研修①）
	28	火	企画運営本部委員研修会⑤
10	12	火	第5回 地区ブロック研修会（専門研修②）
	26	火	企画運営本部委員研修会⑥・研究大会準備
11	9	火	企画運営本部委員研修会・研究大会準備作業
	16	火	第6回夏季研究大会（兼第6回秋季セミナー） 午後ののみの開催（14:00～16:30）
	28	日	第53回 全国情緒障害教育研究協議会 東京大会
12	7	火	第6回 地区ブロック研修会（専門研修③）
	14	火	企画運営本部委員研修会⑦
	-	-	◆会報「みちびき137号」発行
1	18	火	地区ブロック本部会（5地区合同）・企画運営本部委員研修会⑧
	25	火	企画運営本部委員研修会
2	8	火	第7回 地区ブロック研修会（各区市町村）
	22	火	第3回 企画運営本部会・役員会
3	8	火	企画運営本部委員研修会⑨
	-	-	◆会報「みちびき138号」発行 ◆都情研「令和3年度 活動報告」発行

◆今年度を振り返って
東京2020、記念すべきオリンピックの年となるはずだった今年度、賑やかで忙しくなりそうなくの街道を走る聖火ランナーや스타ジアムの競技に旗を振る子供た

ちを想像し、一生の思い出に残る体験ができて良かったね、と声をかけるつもりでいました。そんな中、突然始まったCOVID-19との闘いの日々は既に一年以上に及び、まだ先の見通しが立ちません。昨年度末からの本会が行った緊

急対応の数々では、皆様にはご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。令和二年度、私が直面したのは、「感染症拡大防止に努めつつ、いかに専門研修を止めないか」という課題です。定期総会や夏までの研修会の中止を決定した後、リモート会議で対

応策を検討してオンライン研修会の可能性を探り、試行のためのプロジェクトチームを発足させました。各地区的WEB会議システムの導入状況の調査、企画運営の会議での活用実験、検証のための臨時オンライン研修会の事前撮影や編集、サテライト会場の確保、当日の消毒等予防体制の準備等々、多くの先生方のご協力と連携プレーで、実に整然と着実に様々な対応策が進んでいきました。そして学校再開後の9月一日、年間活動計画にはなかつた臨時のオンライン研修会を試行しました。久しぶりの専門研修に、会員の皆様から感激のメールが届きました。専門研修を止めではないという気持ちを持ちは、皆一緒だったのだと思ひます。その後のブロック研修会、そして十一月の研究大会も、オンライン研修のスタイルや、人数を減らしての対面式のスタイル等、各ブロック本部の先生方のご尽力により、万全の予防対策を取りながら実施してまいりました。

が、皆様のご理解ご協力が続ります。引き続きお力添えを、よろしくお願い申し上げます。

企画運営本部総務 上山雅久

第五回都情研究大会兼秋季セミナー 記念講演

「通級による指導を愉しむ子どもたちの見方、関わり方」

元新宿区天神小学校通級指導学級担任 長谷川安佐子

講演では、通級による指導について、たくさんの事例を交えて分かりやすくお話ししていただきました。紙面に限りがあるため、お話のかなりの部分を割愛せざるを得ず、誠に残念です。それでも、とても示唆に富む内容ですでの、最後までお読みいただき、今後の指導に生かしていただければと願っています。

(広報担当)

通級による指導とは?

今は特別支援教室と呼ばれています、名称が変わってから入った方は、「通級」という言葉は馴染まないかも知れません。正式な名称は「通級による指導」です。あまり

指導内容は?

通級は、通常学級では受けられない特別な指導をしていく教室といふことで、通常学級でできるこ

とを文字で見たり、聞いたりすることがとても少ないと思います。私がいた時代は「情緒障害等通級指導学級」と呼ばっていました。情緒障害とその周りに関係する子供たちを扱うという意味で「等」

が入っていました。元々は自閉症のお子さんを対象に始まったもので、私がいた頃は、自閉症は情緒障害だと思われていたのです。

育つ環境や親の接し方が悪い。そういう色々な要因のなかで普通の子供が自閉的な傾向になっていくと医学的に言われていたのです。段々その概念が変わってきて、もともとその人のもつている特性とか、生まれもつたものだということが、生まぬものだと聞いたら、概念として「情緒障害」のなかに収まらなくなってきたのです、「情緒障害等」と付けたと聞いています。今は、ほとんどが発達障害と呼ばれているお子さんが入っていると思います。

り、休み時間や給食の配膳の時、放課後などに個別指導をしたりしていますが、そういう通常学級でできる個別指導と同じことをやつても、特別支援教室の意味がないのです。

自立活動と教科の補充のうち、教科の補充は非常に分かりやすいですね。学年によって内容が決まっていて何をするかが分かりやすいので、ついそちらに流れてしまふことがあります。ただ、「教科の補充」は、通常学級の担任が考える教科の補充ではないのです。通常学級でやっている漢字の指導を個別でやることが特別支援教室の指導ではないということです。確かに個別指導でやると同じ字を習つても全体でやるよりは内容も頭に入ります。でもそれは、通常学級で担任ができるところを個別にやつていいだけなので、復習や補習なのです。そういうことではなくて、自立活動の視点をもつた教科の補充なのです。

私が教えていた五年生のA D H Dのお子さんで、とても漢字が苦手な子がいました。お母さんが真面目な人だから、いい加減に書いた字は全部消してやり直しをさせてやります。だから、すごく時間がかかる、「もう嫌だ嫌だ。漢字嫌だ。」というふうになつているお子さんでした。何かこの抵抗感をとつてあげた方がいいなと思って、いちじくを、跳ねたら、三本で

と調子よく、絵描き歌のように書いていくと書き順通りに書けるという辞典を通級の時にやらせてみました。そうしたら「先生、これ結構分かるね。」と言って、すごく嫌々ながら変な字ばかり書いていたのが少しは書けるようになつて、宿題が楽になつた感じでした。

また、駄洒落が大好きな子がいて、新しい漢字が出てきた時に、「一つだけこの漢字を使った熟語を作つてみようよ」と言うと、わざと変な使い方をして「これ、どう?」って見せてくれました。で、見たらすぐ當て字のやり方が面白くて、つい私も笑つてしましました。それで、いつも変な使い方一つと、正しい使い方一つを書かせるようにして、漢字の練習をした。それで、駄洒落と関係なく書かせようとするとすごく大変なのだけれど、駄洒落だとすごく楽しんで書くので、駄洒落で書く分には抵抗感が少なくなりました。

色々な面で漢字に抵抗感が少なくなったことで、宿題の圧迫感とか、そういうものはなくなつていったかなと思いました。

教科的な面の取り組みもやってもいいけれど、その子に合わせてやるということなのです。その子が少しでも樂になる方法、抵抗感が少なく学習できる方法を考えあげる。そして、こういうやり方なら分かるよというやり方を見つけたら、通常学級の先生に知らせ

て、連携もできるとよいと思います。

それから、ある教室を見に行つた時に、一週間の反省というのをやつていたのですね。一週間を振り返つて、「〇〇先生に注意されるようなことをしなかつた?」と聞いて、「何曜日に誰々と喧嘩した」とか、叱られたことを全部報告させていたのです。「その時はどうやればよかつたの?」などと通常学級のことを反省させているのです。私は、通常学級で十分指導されていました。そのうえ、またこの教室に来た時に注意されることは、たまつものではありません。叱つたり、駄目なことを駄目と評価せたり、「こんなことをやつたでしょ」と指摘することで解決するものではありません。この子が少しでも通常学級で問題行動が減つたり、仲良く友達と過ごしたり、先生に認められたりするために私たちは何をしてあげたらよいかといふことを探るべきです。もしやるのだったら「一週間のなかで一番楽しかったことはどの教科のどんな場面?」とかを聞くとよいと思います。

自立活動とは?

自立活動は、その子に合わせて選んでやるもので、六区分二十

七項目のなかから選択して、その子に合わせたものをやるということです。発達障害の子はコミュニケーションとか、環境の把握とか、人間関係の形成とか、その辺りが引つかかる子が多いかなと思います。なかにはやはり体の動きが引つかかる子がいると思います。体の動きがスマートではないために、遊びのなかでみんなと互角にできることを通じてやつたときにもやらなくともいいと思いました。多

分、家に帰つても怒られているのです。そのうえ、またこの教室に来た時に注意されることは、たまつものではありません。叱つたり、駄目なことを駄目と評価せたり、「こんなことをやつたでしょ」と指摘することで解決するものではありません。この子が少しでも通常学級で問題行動が減つたり、仲良く友達と過ごしたり、先生に認められたりするために私たちは何をしてあげたらよいかといふことを探るべきです。もしやるのだったら「一週間のなかで一番楽しかったことはどの教科のどんな場面?」とかを聞くとよいと思います。

指導形態

指導形態としては、個別指導と小集団指導です。特別支援教室の小集団指導は、個別的な配慮をした小集団指導と言われています。小さな集団でやるということだけではなくて、そこに個別的な配慮があるということです。途中でその子が困れば担当の先生がちよつと助言したり、指導の中で「これを一人ずつ一分で話してもらうけど、担当の先生とちょっと一回練習してきて」とリーダーの先生が指示を出せば、それぞれの担当の先生がスピーチを聞いて、個別に指導を入れてくれて、その後に、みんなの前でスピーチするというようになります。だから体の大きな動きをやつて十分に体を使えるようにするということも並行してやつていく方が、書字ばかり練習するよりも効果が高いと思います。特別支援教室になつた頃は、運動する場がないことも多かつたようですが、今は交渉して貸してもらうなど色々しているみたいです。

大事なときに大事な言葉が出ないとか、うまい使い方ができないお子さんがいます。私が見た小集団の事例で「カメラで相談」という単元がありました。二人組になると希望の順番を決めておいて」と希望の順番を決めておいて」と相談して決めてから行うと、なかなか決められない子も安心して自分の希望の順番に手を挙げることができます。小集団のリーダーをやるときも一人で四、五人を預かります。小集団のリーダーをやっているわけではなくて、その子がそばにいるのでいろいろなことをよく分かつてくれている

り、睡眠時間がすごく短いようなお子さんは、親が気を付けて管理してくれるようなお家だといいのだけど、そういうお家とも限らないので、自分で健康のことを探していなければよかつたの?」などと通常学級のことを反省させているのです。なかにはやはり体の動きが引つかかる子がいると思います。勝たないと、途中でゲームを投げ出してしまったり、騒いでゲームをひっくり返してしまう子がいます。そういう子も何回か負ける経験をしていく中で「負けても我慢する方がえらい」とか、負けてもこういう方法をとれば自分は我慢ができるとか、徐々に自分で学んでいく

取り組みができるというのが、通級の小集団のよさです。それをうまく生かしてやつていただけたと思います。このように小集団でいろいろなことに取り組むことができます。例えば、ゲームなどで勝たないと、途中でゲームを投げ出してしまったり、騒いでゲームをひっくり返してしまう子がいます。そういう子も何回か負ける経験をしていく中で「負けても我慢する方がえらい」とか、負けてもこういう方法をとれば自分は我慢ができるとか、徐々に自分で学んでいく

とを話すという楽しいことも入つていて、簡単だけどなかなか面白い取り組みだなあと思いました。他の学校でジエスチャーゲームという単元をやつっていました。面白かったのは、二人組でやるようなお題を出していることです。野球やお医者さんなど、立場の違う二人が同じ場所にいるようなお題を出して、二人でどちらの役をやるかを決め、どんな場面をやるかを決め、そしてジエスチャーでみんなに見てもらつて何をやつていねてきました。最初はなかなか話合いができなかつたようです。

二人でどちらの役をやるかを決め、どんな場面をやるかを決め、そしてジエスチャーでみんなに見てもらつて何をやつていねてきました。最初はなかなか話合いができなかつたようです。

子どもを理解するとは？

本人の特性にプラスして、育ち方や周囲の影響が関係していく子達です。学年が上がってクラスが変わり、担任の先生が変わると、今まで問題を起こしてきた子がピタッとクラスにはまって、目立たなくなることがあります。その反対に、今までクラスの中にうまくおさまって指導がうまくいったかなと思つていたのに、学年が変わつたら教室から飛び出したり友達に暴言・暴力をしたり、とても問題になるという例もあります。周りが変わるとその子も変わるといふのも確かに、周りに受け入れられているかどうかとか、その担任の先生が上手に声かけしてくれているかとか、友達の中にとっても相性が悪い子がいるかどうかとか、いろいろな条件で子供の状態は変わつてきます。本人はもちろん特徴をもつてゐるけれど、それに保護者の育て方の影響とか、周囲からの影響などがかなりある子達なので、その両面から見る必要があります。

小集団で体育的なことをやるときに、二人や三人くらいでないと運べない大きな物を競争して運ぶという活動がありました。そうすると、三人でどこを持つかを分担したり、落ちたら拾いにいく人がいたり、いろいろな分担をしながら三人で一つの物を運びます。こういうことは経験しないとできない子が多いです。マットを引つぱるなど片付けそのものはできても、二人でやるということができないです。遅い子を気遣つてペースを

落とすということができない子がけつこういます。いろいろなことを二人組や三人組でやるということが意図的に計算されて単元に組まれて、いろいろなことができるようになると思いました。

子どもを理解するとは？

定する場合もあります。一週間に一回、同じ日に行つて個別に関わつてもらつたり小集団でいろいろなことができたりすることで、一週間のリズムができるのだと思います。保護者も通級に預けたことで一安心して、保護者が安定するから子供も安定するということがあります。

心理テストを参考にするということについてですが、心理テストを受けている子が多いと思います。私たちは専門ではないけど、読むことでも参考になることがあります。よく「目が強いか、耳が強いか」ということを話題にすることがありますが、目が強い子はあまりくどくど説明しても入りません。だから、大事なことをメモして説明するという方が入りやすいです。耳がいい子は、言葉だけで書いてあるとなかなか難しく、言葉で詳しく説明したり具体的に説明したりしてあげれば入つてきます。

自閉の傾向のとてもこだわりが強い子は、予定通りやつてもらうのが一番安定するので、なるべく予定は崩さないことが大事です。どうしても崩さないといけないと今は事前にちゃんと予告するといふことを情報として出してあげることが通常の学級の先生は分かっていないことがあるので、そういうことを情報をとして出してあげることが大切な場合があります。

本人なりの捉え方や感じ方、得意なことや苦手なことを知らせてあげるのもいいと思います。

指導のポイント

子供の苦手なことやできないことを改善してあげようと思うので、通級に来たら苦手なことばかりやらされているということがあります。バランスの偏りがあるので、得意なこ

とを使つたり興味・関心が強いところを使つたりすると、とても取り組みがよくなったり、改善される場合があります。ですので、苦手なことだけではなくて、得意なことなどを把握してやることが大事かなと思います。同じ漢字を学習するにしても興味がある漫画に出てくる漢字だと知っていることがあります。電車が好きな子なら、何々線という漢字は読めるので、それを使つて指導することもできます。

通常の学級の先生は喧嘩ばかりして困るとか、人に手を出して困るとか、教室を出ていて困るとか、騒ぎ出して困るとか、困ったことだけを言いかげです。特別支援教室の先生は、どうしてそのようになるかという背景を考えたり分析的に見たりして、どのような条件だつたらそのようになるかという実態を細かく観る目をもつてほしいと思います。できれば、どのような条件なら与えられた課題をやれるのかという「できる観点」をもつて、こういうことを少し足してあげればできる、分量を減らせばできる、枠を大きくしたら書けるなど、どのようにすればできるかということを考えていくことが大事だと思います。

どうも私たちは、「頑張りなさい。」と言つてしまいがちです。「頑張りなさい」ではなく、「今頑張りなさい」と言つたのは、何を先生が

期待しているか」を言つてあげることが大切です。ある時は、「三十分は静かにして、このプリントをやること」が頑張りなさいだつたり、またある時は、「なるべく多くの友達にサインを貰つて来る」とが頑張ることだつたり、「大きな声で発表すること」が頑張ることだつたりするのです。その時によつて頑張るもののが違うのですが、それがなかなかピンとこないお子さんが多いので、何をどう頑張つたらいいのかを教えてあげるとよいです。数字とか量にすると分かりやすいです。「この漢字を五個書こうね。」それが頑張ることと示されれば、求められていることが分かります。

それから、どうしてもその学年なりのルールや守らなければいけないこと、やつて欲しいこととかが、本人はとてもそこには到達できていない子がいます。だから本人なりの感じ方とか、今ここまでできているということをよく見ながら、それよりも少しでも頑張れば偉いと認めていかないと「同じ四年生なんだからこのぐらいできるでしょ。」と言われたら少しも褒めることがないのです。

当たり前だと思えることでも認めしていくことが大事で、普通の四年生が当然できることもその子がやつたので「偉い」ということだ

つてあります。そういう時に、認めたり褒めたりしていくことが必要だと思います。事後指導でなく、事前に伝えるということも大事です。

あるかと思います。

よく「ソーシャルスキル」が大事だと言われているので、プリントで勉強をしている教室も多いのです。こうなつたらどうしますかと言ふような。あれをやつても全け、随分心構えができます。そ「負けた時にそんな態度とつていの?」みたいにお説教することです。ワードとなつた後に、では、こういう子たちは変わつてはこないのです。目標を上げて、それを頑張ろう、少しでもやろうとして褒められるということで、段々段階が上がっていきでの、事前に目標を作つてそれを守らせていく経験を通じで積んでいくことが大事だと思います。それができるのは、双方のことによく分かつている通級の先生だと思います。

それから、整理整頓が非常に悪い子がこの頃多いです。これも「整理しなさい」では、できないのですね。やはり練習していかないとできないのです。新宿区に支援員の方が入つてているのですが、「朝来たら準備する物」というのを全部絵にしてやつています。終わつたら印を付けていくと、全て支度が終わつたとなるように、絵カードを作つていました。そういう物があると整理がしやすくなつて、そ

なるべく色々な教室の色々な先生と話をして、様々なやり方があるという事を学んで、その子に合つた事をやらせていただければと思います。

是非頑張つてこの仕事を続けてもらえば大変嬉しいです。

広報に関する意見、ご感想があ
りましたら左記までお寄せください。

編集後記

広報に関する意見、ご感想があ
りましたら左記までお寄せください。

編集・発行 企画運営本部広報担当

各ブロック 広報係
世田谷区立桜小学校(石田明人)